

豌豆の品種と低温感応

二井内 浩之*・小野 豊*

NIJUNO, K. & ONO, Y. On the Vernalization of Pea Varieties

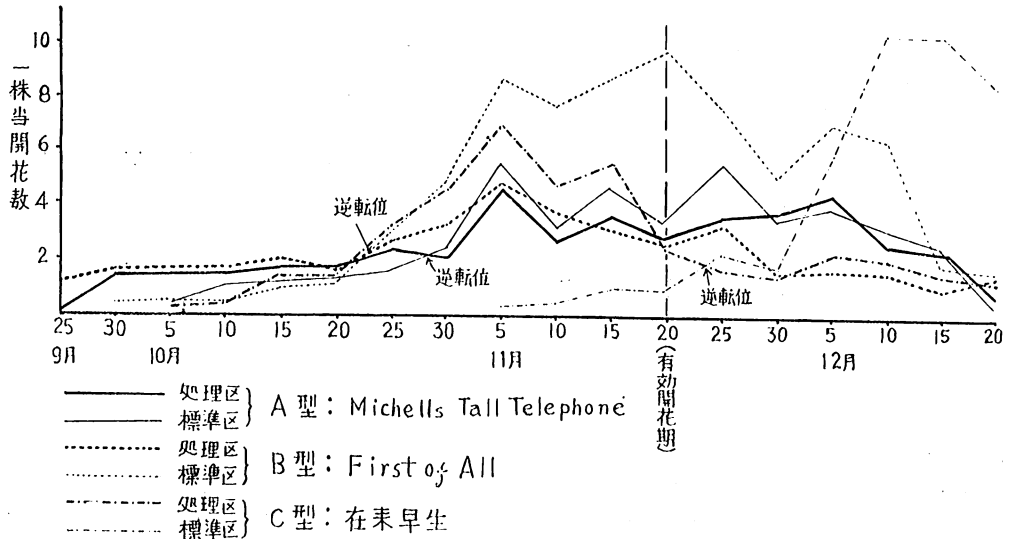
豌豆の品種分類は、秋播型生態を通して行われているが、夏播型、春播型生態については当然この分類では適応しない事も想像出来る。筆者等は分類、育種並びに夏播栽培における品種考察の一資料とするため、実豌豆、莢豌豆について各品種群の代表 23 品種を用いて、3°C に 20 日間低温処理を行い、8 月 25 日に播種してその低温感応度を求めた。結果は次の通りである。

- 1) 草丈は標準区と処理区との間には差はない。
- 2) 主枝の節数は僅に処理区が少い。
- 3) 分枝数は明かに処理区が少い。

4) 処理区は一般に開花が早くなり開花節位が低下する。

特に低温感応性の顕著な品種は、実豌豆のアラスカ東北 1 号、Best of All、De Cardon Bleu、碓井、在来早生、在来小割、華中綿産、莢豌豆の馬系 9 号、白花兵庫絹莢である。同一品種群間で比較すると、アラカス群では低温感応度が夫々異り、Best of All、碓井群では群内に大きな変異はない。しかし、在来早生群では滋賀白花が特に感応力が弱い、莢豌豆では米国大莢群は変異が少いが、30 日絹莢群では白花兵庫絹莢が特に感応力が強い。

第 1 図 開 花 型



* 九州農業試験場

処理によつて開花の様相にも変異を来すが、開花状態は収量にも直接影響するので、開花型を次の5つに分けて考える。

A型——処理により開花数に影響が少い。

A₁型—此の型の品種は開花始が比較的早く従つて収量も多い。Michell's Tall Telephone, World Record, Alaska, Best of All, De Cardon Blew, 30日絹莢, Dwarf Grey Sugar.

A₂型—開花始が遅いため有効開花数が少い。

Surprise, 東北1号, 滋賀白花310号, 米国大莢, 馬系9号, 東京絹莢.

B型——逆転位(標準区の開花数が処理区より多くなる時期)以後の標準区の開花数が多く、その為有効開花期までの開花総数は反つて標準区が多くなる。山城早生1号, First of All.

C型——処理の効果が最も顯著で有効開花期以後になつても、開花数は処理区が標準区を上回る。

C₁型—開花始が比較的早いので処理により収量が上る。碓井, 白竜, 在来早生, 在来小剥, 白花兵庫絹莢, 伊豆1号.

C₂型—開花始が遅いので処理しても有効開花数はあまり多くならない。福岡6号, 華中絹産.

莢の霜害は或る程度 group によつて一致した傾向がみられ、植物体の場合とは違つて居り、一般に耐寒性が強いと言われる在来早生群は非常に弱く、植物体で耐寒性が弱いと言われている Michell's Tall Telephone や World Record 等の被害が少い。亦莢豌豆は実豌豆より一般に強い。唯植物体の形態によつて被害程度が違つて居り矮性のものは、高性のものより被害を受け易いのでその点考慮する必要がある。